

## ゼミや会議におけるアクセシブルミーティング

### アクセシブルミーティングとは

- アクセシブルミーティングは、誰もが参加できる「ユニバーサルデザインの会議」である。
- 聴覚障害者と健聴者が多人数でゼミや会議を円滑に行うための簡単で便利なコミュニケーション手段が要望されている。
- スマートフォンのアプリを利用して検証した。

### 会議やゼミにタブレット端末を利用



### アクセシブルミーティングの実験

- スマートフォンのアプリである、“LINE”と“UDトーク”<sup>★</sup>を用いてグループチャット形式で会議やゼミを行う。
- LINEでは汎用およびオリジナルスタンプを試作して使用。



- UDトークでは健聴者の発言は音声認識で、聴障者はキーボード入力<sup>★</sup>で文字化する。最大20人まで拡張可。

★ UDトークは、(株)プラスヴォイスが開発した会議用アプリ

### 実験の内容

- 会議テーマ:「電子書籍と従来の本による読書の相違」  
参加者:大学生6名
- 検証項目:
  - ①円滑に議論できるか?
  - ②文字入力に課題は? 時間遅れは?
  - ③会議では何か基本ルールが必要か?
  - ④絵文字やスタンプの有効性は?
  - ⑤音声認識方式の有効性は?
  - ⑥最大何人までグループ討議が可能か?

### LINEとUDトークの比較

- 【LINEの場合】
  - ①討議の流れが悪く通常の会議よりも時間がかかる。
  - ②基本的に音声なしのサイレント会議となる。
  - ③文字入力に時間がかかり、沈黙が続く時がある。
  - ④汎用および会議用スタンプは有効である。
  - ⑤会話のタイミングが難しく、基本ルールが必要。
- 【UDトークの場合】
  - ①音声認識方式は健聴者にとって円滑で違和感がない。
  - ②音声認識には誤認識があり、さらに改善が必要。
  - ③聴障者はキーボード入力のため時間がかかる。
  - ④会議での定型文や単語が登録されていて便利。
  - ⑤会議では話し手側と聞き手側に基本ルールが必要

### まとめ

- 聴覚障害者と健聴者が参加する会議やゼミにおいて、UDトークのアプリを用いてアクセシブル・ミーティングは可能である。
- 討議の前に「話し手側」と「聞き手側」に発言の基本ルールを決めておく必要がある。
- 今後は、ビジネスの会議でも利用が期待される。

### 問い合わせ先

東京電機大学 理工学部 情報システムデザイン学系 磯野春雄  
e-mail: isonoharuo@mail.dendai.ac.jp